

平成30年度

# 予算要望書

平成29年12月1日

苫小牧市長 岩倉 博文 殿

公明党議員団

藤田広美

神山哲太郎

大西厚子

池田謙次

林 光仁

健やかに暮らすまち苫小牧のために（14項目）

- 一、認知症の予防と早期発見に物忘れ検査・相談を実施すること
- 一、認知症の早期発見・治療に、かかりつけ医による認知症相談医を育成して物忘れ外来を実施すること
- 一、市で作成する認知症ケアパスを広く市民に周知し活用すること
- 一、訪問診療医の登録や管理など在宅医療体制を構築すること
- 一、介護者支援に相談体制の強化など実質的な負担軽減を図ること
- 一、胃がんのリスク健診を実施すること
- 一、ピロリ菌検査の受診拡大のため助成の対象を広げ実施すること
- 一、がん検診の受診率拡大に向けてワンコイン受診を導入すること
- 一、乳がん検診におけるエコー検査の公費助成を図ること
- 一、HPV検査の公費助成を図ること
- 一、コンビニ健診（特健）の推進を図ること
- 一、不育症治療費の助成
- 一、発達障がいの早期発見・早期療育に5歳児健診を実施すること
- 一、医療的ケア児のショートステイや一時保育など設置を推進

## 人と文化を育てるまち苫小牧のために（10項目）

- 一、国の政策である産後うつ対策事業を早期に実施すること
- 一、ステップ講座のトレーナーを増員し受講機会の拡大を図ること
- 一、多胎児妊婦への健診券の追加措置を図ること
- 一、乳幼児のフッ化物洗口を実施すること
- 一、子ども・若者育成推進法に基づく計画を策定し、具体的に推進すること
- 一、待機児童解消に企業主導型保育事業を積極的に推進すること
- 一、生活保護の自立支援プログラムの拡大及び個別の金銭管理プログラムを実施すること
- 一、静川遺跡の整備と縄文遺跡の公園化を推進
- 一、中央図書館を地域の拠点として利活用する視点から次期指定管理の更新に向け再整備を検討すること
- 一、市科学センターは児童館との複合施設として屋内で子どもの遊び・学び・体験ができる施設など検討する（例として釧路市遊学館）

活力あるまち苫小牧のために（8項目）

- 一、保育士や介護人材の確保に向けた更なる対策の強化を図ること
- 一、雇用のミスマッチ解消や UIJ ターンの求職のため、ワークスポットの機能を持った事業を実施すること
- 一、障害者優先調達推進法に則り物品数や金額の拡大を図ること
- 一、農園運営のコンサルティング会社を誘致し、他法人に所属する障がい者を受け入れる事業を実施すること
- 一、出資法人に対し、障がい者の雇用や育児休暇の取得など、時代の要請に応えるべく指導すること
- 一、テレワークなど活用した在宅での障がい者雇用を推進すること
- 一、移住・定住促進事業は効果のある施策を講じること
- 一、北海道の食の物流拠点として冷蔵・冷凍倉庫とともに食品製造加工会社等の誘致を積極的に推進すること

未来性に富んだまち苫小牧のために（12項目）

- 一、がん教育の全校実施を推進すること
- 一、教員の多忙化の解消に向けて専科教員の配置を図ること
- 一、学校における部活動など部活動指導員の配置を推進すること
- 一、学校図書館司書の小学校全校配置と中学校への配置を推進すること
- 一、いじめ対策としてライン等SNSを活用した相談事業を実施すること
- 一、不登校対策として専門相談員の増員を図ること
- 一、小中一貫教育とコミュニティスクールの早期実施を図ること
- 一、学校トイレ洋式化の計画を立てて早期に推進すること
- 一、小・中学生の体力向上を推進すること
- 一、改新築以外の校舎へのエレベーター設置の前倒し計画を策定すること
- 一、スポーツ合宿に対する助成金を拡大すること（特に閑散期）
- 一、学校の部活動などの吹奏楽楽器の修理代の助成を実施すること

安全で環境にやさしいまち苦小牧のために（10項目）

一、各自主防災組織の防災力のレベルを見える化し、スキルアップ  
できる具体的支援を行なうこと

一、長期化する避難所運営を担うため自主防災組織への訓練を充実  
すること

一、市の幹線道路や公園内の防犯灯のLED化を図ること

一、消防団確保策として、消防団協力事業所の拡大と共に、優遇策  
を講じること

一、車椅子でも安心してまち歩きができる地域を設定すること

一、緊急通報システムの電池交換は低所得者等の負担軽減を図るこ  
と

一、コミュニティFMの導入の推進を図ること

一、冬の除雪は交差点や通学路など早期に排雪して安全を確保する

一、街路樹や植樹帯は事故防止のため適時に剪定を実施する

一、高丘第一霊園の入口樹木の伐採・剪定を実施すること

みんなで築くまち苫小牧のために（6項目）

一、地域福祉向上のためコミュニティソーシャルワーカーを配置すること

一、とまこまい若者サポートステーションとのネットワーク会議の充実強化を図ると共に、独自事業への支援策を講じること

一、道の補助事業であるピアサポーター養成は、利用者も支援者も市民であり、地域生活支援のため拡大を図れるよう支援すること

一、自殺予防対策としてゲートキーパーをあらゆる世代で育成を図ること

一、ヘルプマーク・ヘルプカード配布とともにあらゆる世代に周知する取り組みを積極的に推進すること

一、サポーター養成講座の実施は人材育成として継続した取り組みとして推進すること